

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第６９回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**私たちにできること**

札幌・田近　峰々

「一度罪を犯した人は社会で立ち直ることが難しい。」

こんな話をよく耳にする。心を入れ替え、もう二度と犯罪をしないと決意した人でも、再び罪を犯してしまうというのだ。そんな暗い過去を変えることはできないのだろうか。

　日本の少年による犯罪認知件数は年々減少しているという。ところが、平成十年以降、増加傾向にあるのが再犯者率だ。平成二十八年、少年の再犯者率は三十七．一パーセントにものぼっている。成人の犯罪においても同じ傾向がみられるという。

　少年が罪を犯した場合、判断によって「少年院」に入院する。健全な育成を図ることを目的として、矯正教育や社会復帰支援などを行う施設だ。更生のため、特色のあるさまざまな教育活動が行われているにも関わらず、再び罪を犯すなど、簡単には社会復帰できないようなのだ。

　その原因の一つになるのか、「少年院から退院する人は恐怖と闘っている」というニュースを目にした。退院できるのに、なぜ恐怖を抱くのか、詳しく調べてみた。

　少年院から退院する人の多くが、「退院後、自分はどうなるのだろう」「社会の中でやっていけるだろうか」「また犯罪に手を染め、少年院行きになったらどうしよう」などといった、先の見えない恐怖に襲われるらしい。この恐怖により、立ち直れない人がたくさんいるそうなのだ。

　では、彼らに必要な支援とは、どういったものなのだろうか。

　私の住む長沼町では毎年、更生保護女性会主催による「百円カレーの集い」が行われている。町で収穫された新鮮な野菜を使い、カレーを提供する。百円カレーの集いでは、町の小、中、高校生もボランティアとして手伝いをしている。私は料理や接客が好きということもあり、小学生の頃から、毎年のようにボランティアとして参加してきた。

　その中で去年、こんなことを知った。百円カレーの集いは、少年院から退院した人が安心して社会復帰できるようにと願い、百円カレーで集まったお金を少年院に寄付しているというのだ。

　このように、支えていきたいという多くの人の思いが、少しでも彼らに伝わるといい。互いに支えあうことの大切さを共に理解し合い、彼らにとっても、支えられている実感がもてるようになれば、少しでも安心して暮らしていけるようになるのではないだろうか。そのような周りの支えが大切なのだと思う。

　人は、誰もが人として尊重され、自分らしく生きていいはずだ。たとえ、非行や犯罪など過去に失敗してしまった人も、更生したなら、皆と同様に自分らしく生きていく権利をもっている。「過去」を変えることはできなくても、「未来」はいくらでも変えることができる。誰にでもその可能性があるのだ。その可能性を、みんなが支え合いながら、みんなで保障していくのが理想だろう。

　誰もが、失敗する人生は送りたくないはずだ。だから誰一人、犯罪に手を染めてほしくない。もしも失敗してしまったのなら、真剣に反省、更生してほしい。そして、二度と過ちを繰り返さないという決意で、希望のある人生を送ってほしい。もちろん周りの私たちも、共に支えあっていくことが大切だ。

「一人ひとりが人として尊重される社会」そんな社会をみんなでつくり、みんなで支えあっていけることが、今の社会に必要だと思う。人と人のつながりを大切にし、お互いを尊重し、支えあうことを通して、だれもが心豊かに生きられる明るい社会になってほしい。

　そのような思いをもちながら、私は来年もまた、「百円カレーの集い」に参加するつもりだ。